



カンボジアの子どもたちに教科書を

2013年9月 No. 46

カンボジア便り

市井秀治

～目次～

カンボジア便り	1~4
「送水装置」を寄付・教科書購入・識字学校・幼稚園・アジア未来学校卒業生の消息	
ボランティアさんの感想	5,6
当会の財政事情悪化とその対応	7
庶務事項	8

トイレのための「送水装置」を寄付します

前回のニュースレターでお伝えした通り、Swedish Lifestyle 様からのご寄付で、11校へ黒板の寄付を行いました。今回、Swedish Lifestyle 様より新たに65,766円のご寄付を頂き、当会の一般会計からの支援と合わせて、主にトイレに水を送水する為の装置を寄付することとしました。これまでもニュースレターでお知らせしてきましたが、トイレで水が使えないことは、衛生的にもよくありませんし、遠くから水をバケツ等で運ばないと使えない現状は特に女子生徒には大きな負担です。送水装置のおかげで、簡易の水洗トイレが確保され、生徒の学校生活が大きく改善されることが期待できます。装置の要、モーターの値段は1個あたり約75ドルで、11校全てに寄付することを計画しています。また、小学校の側でも学校の予算をやりくりしてモーターからの電源をつなぐコードを購入することになりました。校長先生を初めとした現地の人達の間でも、支援を受けるだけでなく、自分達も積極的に教育環境の改善に向けて努力していこうという姿勢が見受けられ、喜ばしい限りです。

来年度に向けて教科書を購入します

10月から始まる新年度においても、ルセイサン小学校を中心とした11校の小学校へ教科書支援を継続していきます。昨年は初めての試みとして、学期の途中に転校・入学してくる子どもにも確実に教科書を配布できるように、予備の教科書を210冊購入しました。最終的には予備の教科書もほぼ全て使われることになり、昨年度は当会が目指した「どんな時でも常に全ての子どもが教科書を持っている状況」が実現できました。新年度では、クメール語(国語)、算数、社会、生物などの教科書を11校合計で3,873冊(予備の教科書210冊を含む)、金額にして約3,660ドル、支援します。

一方、今回新たに6校の小学校から教科書支援の要請がありました。いずれの学校も、現在支援している11校が支援前に経験していたような教科書不足による問題を抱えています。当会では、これら6校への支援拡大を慎重に検討いた



教科書支援について話し合う校長

しました。しかし、近年教科書支援だけでなく、ルセイサン幼稚園・識字学校などに支援の幅を積極的に広げてきたことから、これ以上教科書支援を拡大すると、3年後には当会の資金が底を付いてしまうことが試算されます。苦渋の選択ではありますが、今回は6校への支援は見送り、既存の11校への支援を確実に長く継続していくこととしました。（後述の「当会の財政事情の悪化とその対応」参照）

識字学校でもたくさんの子ども達が学んでいます

新しい場所へ引越しをした識字学校ですが、今でもたくさんの子ども達が元気に学んでいます。この学校に来ている子ども達は総じて貧しく、中には、親に捨てられた子やエイズで親を亡くした子どもなどもあります。子ども達はみんな、「貧しい子どもでもこの学校があるおかげで勉強できる」と、日韓アジア基金の支援にとっても感謝しています。



識字学校で学ぶ子どもたち

人となりました。このうち、20人の子どもは来年からルセイサン小学校の1年生クラスに進級する予定です。

当会では現地スタッフのリティさんを通じて、幼稚園に子どもを送る親へのインタビューを行いました。先生については、「送り迎えの時もいつも子どもと一緒にいてくれ、非常に責任感があり、子どもを幼稚園に通わせる際の不安が無くなった」という声が聞かれました。一般的にカンボジアでの幼稚園の先生は、給与水準が低く手間もかかるためあまり人気の無い職業と見られています。しかし、この先生は子ども達が少しでも楽しく学べるよう、小さなパーティを催したり、家庭訪問をして親に子どもを通園させるよう促すなど、

トゥクトゥクの支援で

ルセイサン幼稚園も大盛況

これまで色々な形で支援をしてきたものの、通園する子どもの数が中々増えなかったルセイサン幼稚園ですが、今年は子どもの送り迎えをするトゥクトゥクと幼稚園の先生の給与を支援してきました。結果として、年度末に向けて通園する子どもの数は継続的に伸び、最終的に45



パーティを楽しむ子供たち

とても精力的に教育に取り組んでくれています。また、トゥクトゥクに関しても、登下校の際の安全性が飛躍的に高まり、不慮の事故などを心配する必要がなくなったということで、日韓アジア基金の支援に対する多くの感謝の声が聞かれました。

これまでの経過を観察した結果、教育熱心で責任感の強い先生の存在と、登下校の安全を確保してくれるトゥクトゥクの相乗効果で、通園する子どもの数が飛躍的に伸びたものと考えられます。これらを踏まえて、予算の制約などもありますが、新年度に向けてのルセイサン幼稚園への支援の継続についても、今後検討していく予定です。



家庭訪問して出席を促す先生

旧アジア未来学校の卒業生のその後

私たちの活動の原点であったカンボジアの「アジア未来学校」は、2003年3月14日にプノンペンのアンロンコン・タマイ村に誕生しました。ドナーの皆様のご支援で140名を超える学校に行けない子ども達を支援して、2008年夏その使命を終えて閉校しましたが、その間延べ140名を超える子ども達に初等教育の手ほどきをしました。

ここを巣立って行った子ども達が、現在どういう環境におかれているかを把握するのはお国柄なかなか困難ですが、リティさんの努力で数人ではありますがその後の消息を知ることが出来ました。わずか数人の消息ではありますが、そこからカンボジアの子ども達の置かれている状況が読み取れると思います。今後とも判ったことがあれば随時ニュースレターを通して皆さんにお知らせしていきたいと思っています。



1) Ung Liza(写真向かって左端)

彼女は16歳で村から4キロ離れている Dongkor 中学校2年生。毎日自転車で通学し、時々AFSの英語教室にも通い、Save Cambodia という NGO の支援で1日3ドルの授業料のかかる塾にも通って勉強しています。今(学年末の休暇2ヶ月間)近隣の衣料工場に働きに行っています。2人の姉は衣料工場働いており、母親は自家製ケーキ

を売って生計を立てています。彼女は「アジア未来学校のおかげでこうして中学校に行くことができた。将来は大学で勉強したい」と話しています。

2) Try Ravy (真ん中の青いシャツを着た少年)

17歳の彼は現在 Dongkor 中学校の3年生。彼と同様アジア未来学校を卒業した子どもが4人同じ学年にいるそうです。父親は障害をおっており、母親が卵を売っています。昨年会った時には、「学校に行くには毎日先生にお金を払わないとならないから(カンボジアでは先生の給料が少ないためか、小額ではあるが生徒から徴収する習慣がある)来年は学校に行かせてもらえないかもしれない」と話していました。また補習を受けられない子どもは他の生徒についていけなくなる心配もあります。何よりも毎月の試験がこの補習の内容に大部分かかわるので、補習を受けられない子どもは試験にも落第しがちだそうです。「幸い今年は進学できたがこのあとどうなるか不安である。もし学校に行けない場合は、建設現場か工場で働くことになる」そうです。

3) Mr. Dara (赤いシャツの一番大きな子)

ダラ君のことを覚えておられる方もおられるでしょう。両親、姉2人、弟2人の7人家族で、アジア未来学校の優等生でした。在学中に村で犬にかまれた時、狂犬病の恐れがあったので当会の皆さんの支援でプノンペンの病院で治療を受けて事なきを得ました。現在19歳ですが、長男である彼は先生にお金を払えなかったことや、家族を養うために中学1年生で中退して働いています。以前衣料工場で働いていた時には、月100ドル給料をもらっていたそうです。彼は体も大きいので工事現場や衣料工場の建設現場で建設工として働いて、一日4～5ドルは稼いでいるのだそうです。「アジア未来学校で基礎教育を受けたおかげで、読み書きが出来るようになり中学まで進学できたのは感謝している。もっと勉強したかったが、残念ながら無理だった」と話してくれました。

4) Ung Sovannarith (前列右の白いシャツの少年)

13才の彼は Dongkor 中学校の2年生。体は小さいが賢い子どもでした。今は自転車がないので友だちに乘せてもらって通学しています。友だちが学校に行かない時は彼も行けないのが今の問題。スポーツのユニフォームが買えないので、体育の授業に出られないのも悩みだそうです。

5) So Sovanthida (前列左の白いシャツの女の子)

昨秋会ったときはルセイサン小学校の5年生でしたが、今年は連絡が取れていません。

優等生だった Chanda ちゃんは村を出てしまったと聞いています。子ども達の希望は

- ・ 自転車が欲しい。
- ・ 体育用のユニフォームが欲しい。
- ・ 補習のお金をサポートしてもらいたい。
- ・ 先生が毎日お金を集めないようにして欲しい。

など色々ですが、私たちも今後どのような効果的なサポートが出来るか考えていきたいと思えます。

ボランティアさんの感想

貴重な感動をありがとう

～ニュースレター発送作業に参加して～

学生 曹 洗認(チョセイン)

今回私が参加したボランティアではちょっと新鮮な気持ちを持つことができた。今までのボランティアは直接に人を助けること、例えば東京女子医大で医療ボランティアをすとか、そんな感じでいつもやっていた。私は今回もただ人を助けること、それだけを思って参加したが、以前と異なって今度は私に二つの貴重な感動をくれた。

一番目は日常生活では感じられないこと、特に最近の社会で全然見つからないことが見つかったことだ。最近ではパソコンとかスマートフォンで文書を書くことができるために、手で直接に書く手紙、葉書が少なくなった。私も横浜に住んでいる友達に、以前は手書きで手紙を書いていた。ところが、スマートフォンが流行になってから私は、Facebookとかメールで連絡するようになった。こんな時代に私は紙の手紙の中に、手書きでコメントを書いてビニールの封筒に入れる作業をする機会に出会ったのだ。電子メールと違ってちょっと面倒だったけど、昔の気持ちを感じる事が出来てなんだかうれしかった。

もう一つ、一番心に残ったことはスタッフだったおじいさんのお話だ。私はその話を聞くまでなぜこの団体の名前が「日韓アジア基金」なのかが気になっていた。日本に住んでから韓国人として様々な差別待遇を受けてきたせいで、ほとんどの日本人は韓国に悪い感情を持っていると思ってきた。けれど、日本にはまだ韓国に好い感じを持っている人がいることがわかった。そのおじいさんは昔から韓国が日本にたくさんの文化を伝えてくれたので、それに報いたいと言ってくれた。その話を聞いて私は“あ、まだ日本人の中には韓国人にいい感情を持っている人もいるね”と思った。日本と韓国の関係はまだまだよくないけど、私は両国に立ちふさがる見えない壁がいつかなくなると信じている。

ボランティアの後、スタッフの人たちと昼ご飯を食べていろいろな話をする事が出来て貴重な機会になった。ニュースレター発送作業以外にもこの基金のイベントにまた参加したいと考えている。



全部作業が終ってホッとしてます。

予想外の経験をした ～ニュースレター発送作業に参加して～

高校2年生 キムヨンフン

「ニュースレターの発送作業」と初め聞いた時、正直に言うとただの単純作業で決して楽しい作業になるとは期待していませんでした。しかし今の僕は、予想外の経験をしてこの感想文を書いています。実は本当にいい経験だったのです。自己紹介、発送作業、デニーズでの食事など、当日のボランティアは僕に非常に良い思い出を抱かせてくれました。



わき目も振らずに支援者の皆さんへのコメントを書く

仕事はカンボジアで黒版を作るのにお金を寄付した人たちに、感謝のメッセージとニュースレターを送る作業でした。カンボジアでは黒版が無くて困るということを聞いて胸が痛みました。ここ日本や韓国などでは、勉強に必要な条件は十分にあるにもかかわらず、一生懸命勉強しない学生〔僕を含めて〕が多いのに反省もしました。

何よりも、勉強をすることを楽しみにしている、幸せな表情で黒版を待っているカンボジアの子供たちを考えながら、ニュースレター発送作業に任じました。

僕はあの日目覚めました。本当にいいボランティアとは、表面的に楽しいものじゃなくて、心から心への愛の伝達だということだということ。ニュースレター発送作業は知らない人の目には、ただのつまらない労働に見えるかも知れません。でも、内面的には決してそういうことじゃなく何よりも価値ある事で、終わった時は最高の達成感を与える仕事だと僕は思います。

あと、友達を作る機会にもなったし、たくさんの人達と出会うこともできました。仕事が終わってのデニーズでの食事もいつよりも美味しかったと思います。そのうえ、スタッフさんたちとも話に花が咲き楽しかったです。

来年機会があれば、もう一度参加するつもりです。本当に良い経験を与えてくださってありがとうございました。

当会財政状況の悪化とその対応

会計担当理事 大澤 龍

直近の年間財政状況

		単位 万円	
		従来	直近
収入		100	80
支出	国内	17	17
	カンボジア (円換算)	80	100
	支出計	97	117
収支差額		3	△37

東日本大震災以降、会費・寄付が減少傾向にあり、従来年間 100 万円前後であったものが 2012 年度には 80 万円になっています。

支出

事業内容に大きな増減はなく、カンボジアの年間経費は 1 万ドルです。円換算では、この所の為替の変動で 2 割ほどの増加となっています。

差し引き

その結果、年間の収支差額が +3 万円であったものが △37 万円となり、昨年度末の残高 120 万円と対比すると、このままでは後 3 年で当会の財政は破綻してしまいます。

一方、カンボジアでは教科書支援の評判が良く、更に支援校数を増やして欲しいとの要望もあります。

対応 この状況に対応すべく以下の検討を開始しました。

1 カンボジア

考え方

現地の経済的自立に向けての活動を促進する。

従来、殆どの出費を当会の支援に頼る形で事業を進めてきたが、現地で少しでも収入を得て経費の補填に当てる。同時に各家庭の収入増を計り、子供達の中途退学防止を計る。

このため、日本から以下三項目を提案し、現地で実施を検討して貰う。勿論これ以外に現地からの提案があればそれを優先する。

1-1 学校菜園

校庭の一部に菜園を作り、収穫物を売って教科書購入等の費用に充てる。

当会は種、肥料、道具（鋤、鍬等）の購入費用を負担する。

1-2 カウバンク

牛・羊等を放し飼いにして子牛、子羊を産ませ、これを売って収益を上げる。

最初の親牛購入費用は当会が費用負担する。

1-3 家庭向けプログラム

上記菜園、カウバンクに加え、小規模な商売をやりたい人に現地マイクロファイナンス会社の情報を提供する。当会は情報提供を行うに留める。

*マイクロファイナンス：小規模・無担保の個人向け融資制度

2 日本

この所アクティブなファンドレイジング（資金調達活動）をしていなかったのもので、これを反省し、下記を行う。

2-1 役員・スタッフの知人・友人へのファンドレイジング

2-2 ITを活用してのファンドレイジング（Ready For、Just Giving等を想定）

2-3 既存の支援者へのレポート・支援増額のお願いの強化

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方（敬称略・五十音順）

2013年6月2日 ニュースレター45号 発送作業

青塚みゆき・有馬美代・乾実冴・岩波佳歩・加世田真子・キムヨンフン・斉藤なおこ・
斉藤よしあき・千葉真由美・チョセイン・土田彩加・根本杏樹・半田孝輔・保坂明子

2013年5月26日～2013年8月24日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・五十音順(別枠除く)

荒川 雄彦	大塚 紀子	菊池 貞子	合田 稔	田野辺隆男	峯村 公雄	愈和暎 2件
井内 和夫	小川 英	北川 節子	柴田 義之	波多野淑子	宮澤 和子	吉村 悦子
井上 卓也	小原 勝子	木村 由美	菅原 順次	福島忠男・シゲ	矢崎 芽生	
内尾亜津子	唐澤 一登	工藤 早苗	高橋周孝 2件	堀川 泰義	山崎 杜子	
江本 哲也	川崎由紀子	黒巢 香	健石 睦子	松田えり子	山沢 勲	

Swedish Lifestyle株式会社

イーココロ！匿名寄付

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
法人会員:年会費1口10万円
ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153
口座名 日韓アジア基金

- ・ 活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
- ・ 賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

遺贈に関する相続税の優遇について

当会は税金優遇措置を受けられる認定 NPO 法人です。
遺産をご寄付下さると、その全額が相続税の対象から控除されます。

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
(常駐職員がおられませんので、ご訪問の際は事前にご連絡下さい)
Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
E-メール: jkaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさって下さい。

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也